長岡地区納税貯蓄組合連合会　会長賞　佳作

世界の消費税

長岡市立旭岡中学校
一年　渡辺　姫花

私は夏休みの課題で税金の作文が出たとき、すごく困りました。税金に興味がわいたことがなかったので、何を書けばいいか分かりませんでした。しかし、小学校の頃に日本にどんな税がある かは大体は教えていただいたので、今回、世界の税について調べることにしました。税と言っても多くの税があるので、消費税に絞って書いてみることにしました。

まず、私が少し気になった日本の税率は高いのか低いのか。結論から言うと低いそうです。私はずっと高いと思っていたので意外でした。一九八九年に3％から始まり、一九九七年には5％、二〇一四年に8％、そして、二〇一九年には現在の10％となりました。

ここで、世界で一番消費税が高い国はハンガリーで、日本の3倍近い27％であることが分かりました。ハンガリーは中央ヨーロッパにある国です。ランキングに注目してみると、上位は、ヨーロッパの国々が占めていました。調べてみると、EUの基本法令である「VAT指令」により、標準税率を15％以上にするよう義務づけられているそうです。なんと、1位のハンガリーには、おもしろいことに、「ポテトチップス税」というものがあり、体に悪い塩分や糖分が多いものに対して税金が課せられています。これにより私は、国民の健康意識が高まり、医療費の削減にもつながると考えました。また、2位のデンマーク、ノルウェーでは、学費が大学まで無料、子どもは医療費が無料、手厚い年金などがあります。ヨーロッパは、高負担、高福祉の国といわれていて、消費税が高いにも関わらず、将来への不安は少ないと言えます。実際に世界幸福度ランキングでは2位と5位にランクインしています。では、日本はどうでしょう。日本は62位で先進国にも関わらず、国民の幸福度が低いというデータがあります。なぜでしょう。それは、将来への不安が大きな理由の一つになっているのではないかと考えました。まず、私を筆頭に日本の若者はあまり興味を示していないと思います。ですが、日常的に消費税は払っています。しかし、その使い道については良く分かっていません。少子高齢化と言われている日本で税金を払いつづけて、はたして、将来への不安が全くないと言えるのだろうかと不安な気持ちの表われではないかと思います。

私個人の意見としてはまず、日本の若者が政治について興味を持ち、自分たちの払っている税金に対して、真剣に考える必要があるのではないか、そしてヨーロッパのように税金を増やして、将来への不安をなくすというのも悪くないと私は思います。

今回の夏休みの課題で、この作文を書いたことが税金について考える第一歩となったことはまちがいないと言えるでしょう。